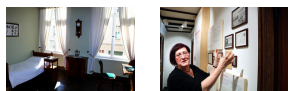


## ベルリンの森鷗外記念館がリニューアル

ベルリン＝高野弦 2017年3月24日23時06分



リニューアル・オープンした森鷗外記念館＝ベルリン、高野弦撮影



とって、ここは日本の文化を紹介する『センター』としての位置づけ。自分が退職する前にどうしても改修しておきたかった」と話した。

同館には年間約3千人が訪れる。（ベルリン＝高野弦）

ベルリン中心部にある森鷗外記念館が半年ぶりにリニューアル・オープンし、23日に記念式典が行われた。記念館は、明治の文豪、森鷗外がドイツに留学中に下宿した場所にあり、当時の生活ぶりや時代背景を詳細に説明している。

軍医だった鷗外は1884年から4年間、ドイツに滞在し、フンボルト大学などで衛生学を学んだ。留学から100年となる1984年、同大学が運営する形で記念館を設立。改修には日本から寄付金も寄せられた。

これまでドイツ語が中心だったパネルの説明に日本語が加えられ、展示は鷗外とベルリンとの関係に、より重点が置かれた。33年にわたって同館に勤めるベアータ・ボンデ副館長（62）は「パネルの色が変わるなど老朽化が進んでいた。ドイツ人にとって、ここは日本の文化を紹介する『センター』としての位置づけ。自分が退職する前にどうしても改修しておきたかった」と話した。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.